

モズクの仲間クロモの生態を探る ～月別の長さや成熟状況～

栽培・深層水課 主任研究員 浦邊 清治

1 背景・ねらい

クロモは県内では「イワモズク」や「春モズク」と呼ばれ、春に、主に魚津市、入善町及び朝日町沿岸の礫や岩盤に生育しているものが採取されている。

クロモの主たる収穫期は4～5月の短期間であるが、キロ単価は数千円と比較的高価格なため、漁業関係者から持続的に利用（漁業管理、漁場管理）していくために必要な知見の収集を求められていた。

そこで、平成27年に持続的利用の検討に向け、月別の長さや成熟状況などを調査したので、その結果について報告する。

2 成果の概要

調査は、平成27年1～8月にかけて射水市海老江地先の1地点（水深2m）及び3～8月にかけて朝日町元屋敷地先の2地点（水深1m及び3m）において、各月に1回行った（図1）。

水温は、海老江地先、元屋敷地先の水深1m及び3mでは、それぞれ10.7～28.6℃、10.4～27.3℃及び10.8～27.0℃の範囲にあった（図2）。

クロモの着生は、海老江地先では2～6月、元屋敷地先では3～6月に認められた（図3, 4）。

平均全長が最大を示した月は、元屋敷地先の水深1mでは4月、海老江地先及び元屋敷地先の水深3mでは5月であった（図4）。

単子嚢（孢子が入った袋）を有する成熟個体は、海老江地先及び元屋敷地先の水深1mでは4～6月に、元屋敷地先の水深3mでは5～6月に認められた（図5）。いずれの地点においても、5～6月に成熟率が70%以上であった。

3 成果の活用面・留意点

クロモは、発芽から1年以内に生殖細胞を放出して、枯死する単年生の海藻であるが、生育環境により、生長、成熟時期等が異なることが推察されたため、持続的に利用していくためには、引続き必要なデータの集積が必要である。

4 問い合わせ先

富山県農林水産総合技術センター 水産研究所 栽培・深層水課

担当：浦邊 清治

TEL：076-475-0036

(参考) 具体的データ



図1 クロモ調査地点

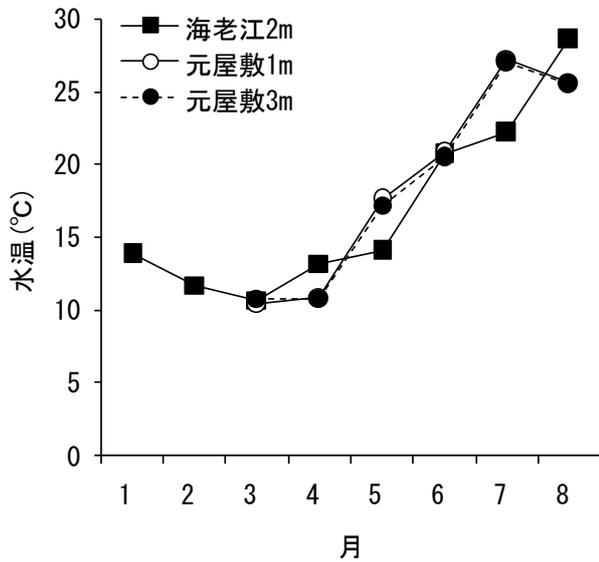


図2 各調査地点における月別の水温

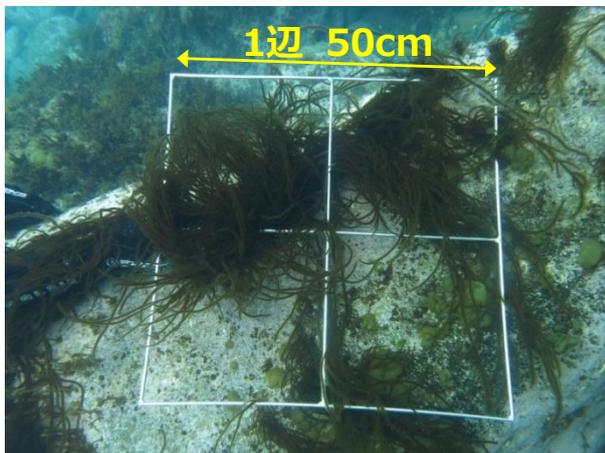


図3 人頭大から等身大の巨礫に着生するクロモ (朝日町元屋敷地先)

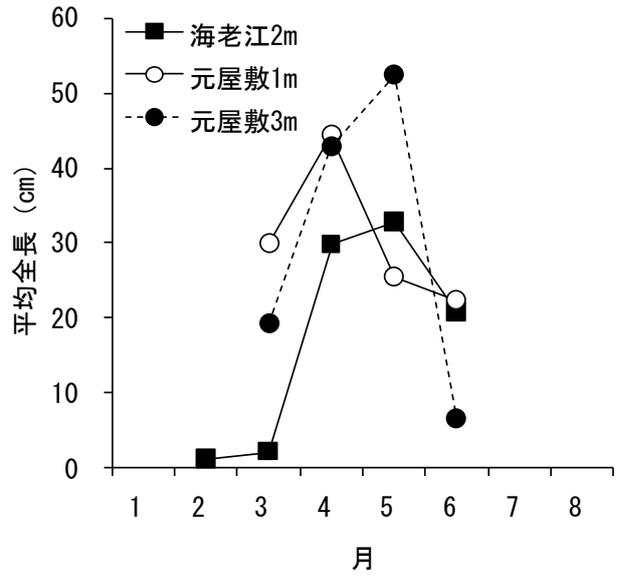


図4 各調査地点における各月のクロモの平均全長

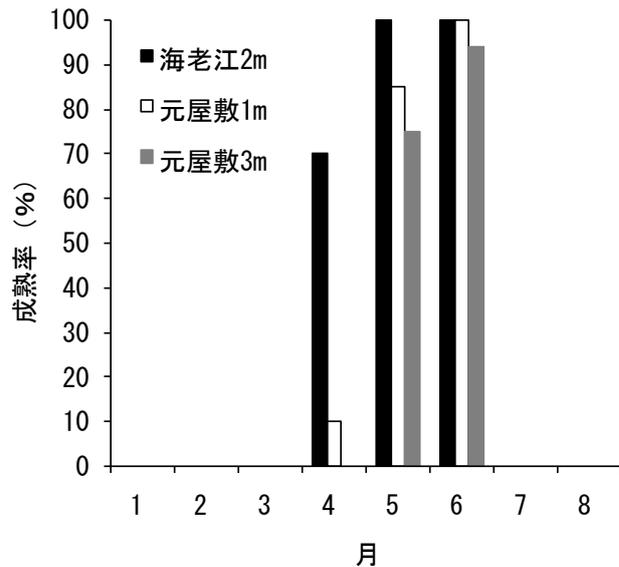


図5 各調査地点における各月のクロモの平均全長と成熟率

成熟率 (%) : 単子嚢を有する個体の割合

※海老江 2m では、2 月及び 3 月にクロモが小型で採集できず、単子嚢の有無を確認できなかった